

ユビキタス社会の教育情報を考える

アーカイブス活用と情報格差にどのように対処するか

佛教大学教授
NPO法人学習開発研究所代表
西之園晴夫

社会の情報化は人類に幸福をもたらすか

- インターネットは社会の表と裏を映し出している
- 裏社会へ誰でも参加できる. 原爆製造から麻薬まで
- 茶の間や勉強部屋に入ってきた犯罪, ポルノ, 出会い系
- 一部の学生のインターネットのイメージは
ブラックホール, 落とし穴, 便利であるが恐ろしい
- 自律的学習に従来の学習指導の枠組みは有効か
- 宇宙飛行士, オリンピック選手への憧れと教育目標
- 身近な図書館, 博物館, 美術館での最新知識の学習

学習開発の2つの方向性

- **教育目標, 教育内容を重視した展開**
 - 明治期以来の啓蒙的発想＝近代化の推進
 - 習熟者が教え未熟者が習うという知識伝達を基本
 - 産業育成, 科学技術振興に期待, 目指せ学力世界一
- **学習権と学習ニーズを重視した展開**
 - 変動社会における生活権としての学習権の重視
 - 多様な学習者の多様化するニーズへの対応
 - 自律協調学習による生活・専門職レベルの維持
 - 社会不安の解消としての生涯学習社会の実現
 - 問題解決と知識創造, 個人の成長を支える学力

日常の学びからスタート

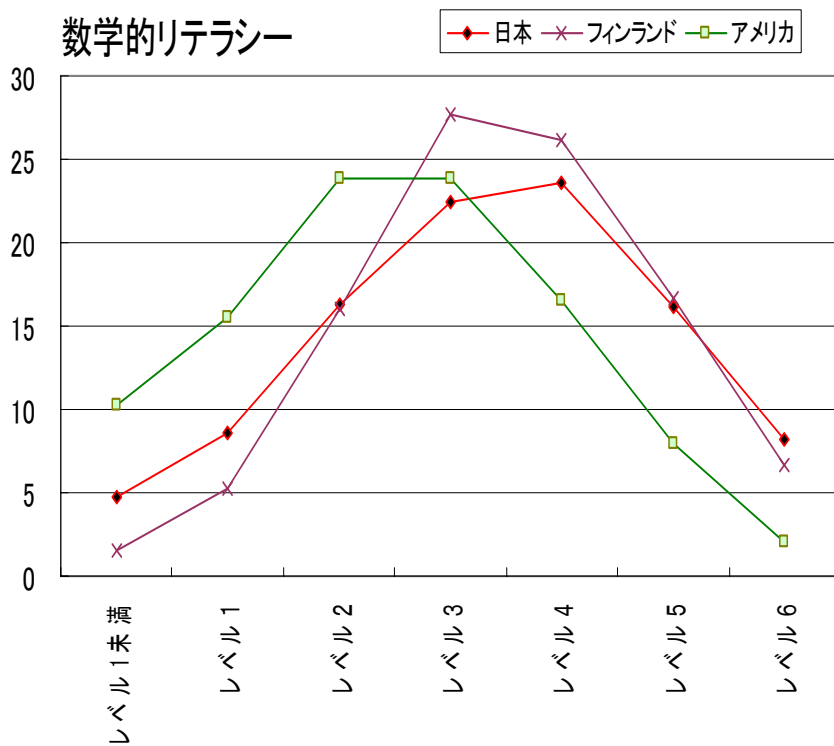
ユビキタスな学習をどのように設計し、評価し、組織するか？



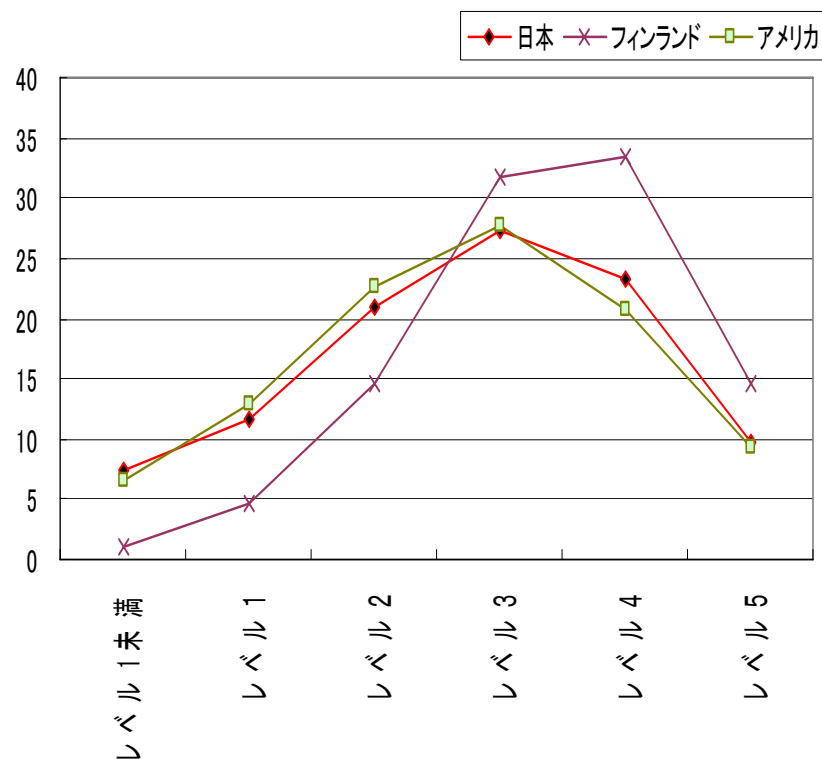
わが国の学力格差の特徴

低位学習者への配慮の弱さ

数学的リテラシー

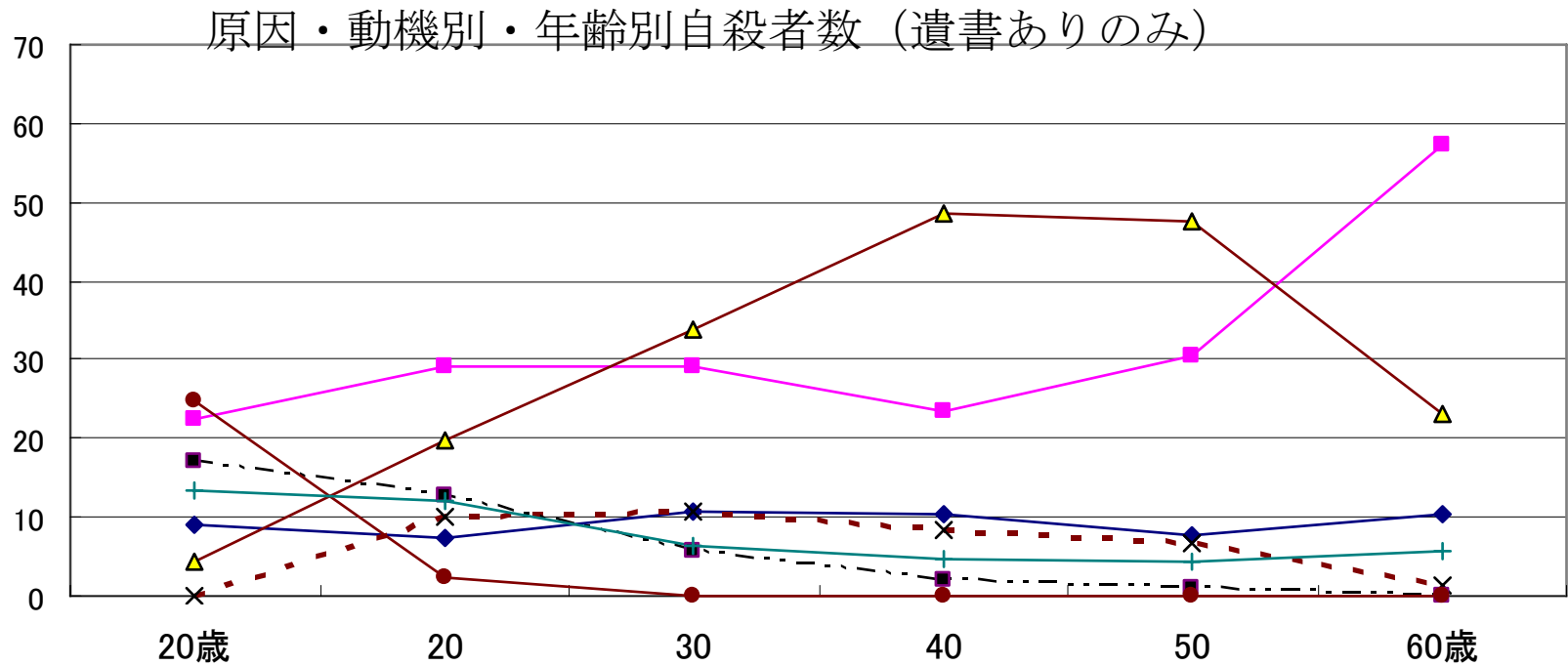
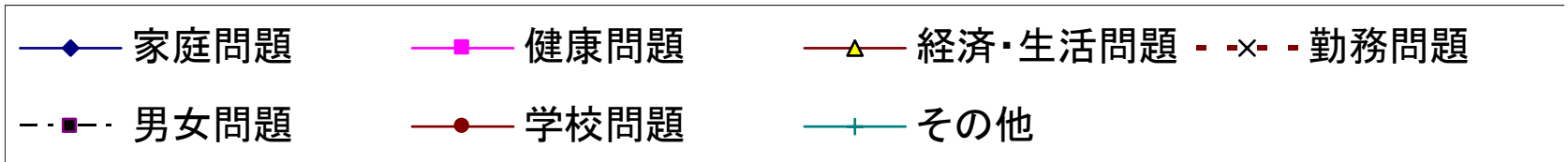


読解力における習熟度レベル別の生徒の割合



わが国の自殺者の特異性

セイフティーネットの立ち遅れ



（資料）警察庁「平成15年中における自殺の概要資料」

新しい学習形態に対応する教育制度

- 従来の大学教育
 - 対面授業の重視
 - 多人数に対応する講義
 - 少人数によるゼミでの演習
- 試みている方法(個人学習から組織学習へ)
 - e-Learningの新しい形態＝職場での学習と専門職教育
 - 少人数チーム学習をネットワークで形成する多人数教育
 - 自律協調学習とチームワーク能力の育成
 - 問題解決のための知識創造科目の創設
- u-学び(universal and ubiquitous learning) の試み
 - 多人数の学生のチーム学習での参加状況を分析し解釈することから
 - 通学制大学院教育のうちの土日開講授業の一部を分散教育
 - 教員研修とのタイアップ＝京都市の一部, 京田辺市, 八幡市

問題解決と知識創造をめざす学習開発

- わが国の学生は知識吸収と成績優秀を指向
 - 教養主義に傾倒しがち
- 消極的学習参加とチームワーク能力の貧困
- 批判と非難とが区別できない
- 自己の主張を論理的に展開することが苦手
- ICT活用はコミュニケーションと協調学習に有効
- チーム学習はうまく機能するか
 - わが国独特の心理的風土がある

知識創造とわが国の現状

- ピーター・センゲらの「学習する組織(Learning organization)」のきっかけは日本の輸出攻勢
- 野中郁次郎らのグループの知識創造での活躍
- NHK番組の「プロジェクトX」にみられるモデル
- 技術に関する優れた哲学的考察, 三枝博音ら
- 教育界における経験重視の風潮
 - 経験の暗黙知を明示化する方法論の必要性
- 現場主義(On the Job)と分散学習の統合の可能性= 暗黙知の重視

近代化発展モデルの教育の枠組み

教職科目
教科内容

教育目標
指導内容

教授法

指導技術

授業実践

教育成果

先読み

省察

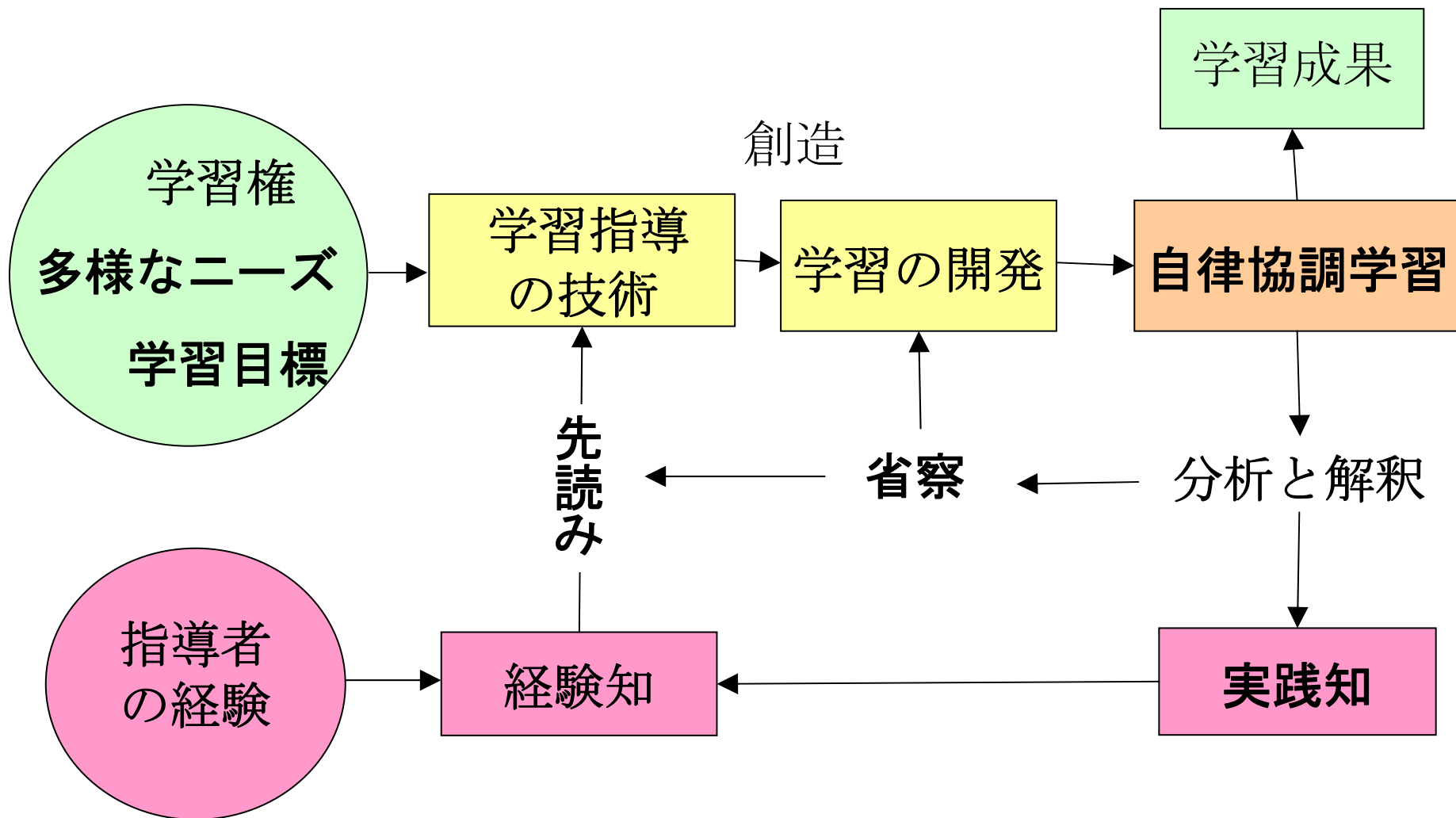
分析と解釈

教師の
経験

経験知

実践知

変動社会における学習開発の枠組み



成人教育での分散学習と情報共有

- 実際の問題解決の事例を教材とする
 - プロジェクト方式による自律協調学習
- 協調学習の問題
 - チーム学習の枠組みの理解と協働できる能力の開発
 - 共同開発などの基本理念(**Concept**)が前提
 - 「学習する組織」としての共通理解(**Metaphor, Image**)が前提
- コミュニケーションの問題
 - チャットの活用では参加者の入力スピードの格差が大きい
 - テレビ会議システムでは受講者のIT環境と時間調整の問題
 - 職場で学習する場合にはファイアウォールが障害
 - 家庭ではパソコンの機種による制約がある

自律協調学習を目指す多人数授業と情報共有

授業科目:教育方法学(2005年春期)

受講者数:276名で44チーム編成, 11学習集団での運営

授業時間:金曜日3時限(12:50-14:20)

使用教室:大講義室(4人×4脚×30列)

図書館と学習室

教材・教具:印刷教材とケータイ(教室内), 図書, Web

大学のデスクトップPCと学生自前のPC

実践目的:知識創造型の授業, プロジェクト方式

授業形態:チーム学習と個人学習の統合

授業風景の写真

- 多人数授業「教育方法学」の授業風景について
学生が写っているのを削除しています。



ABC概論-

▼ニュース▼

12/15 13:00~第4回小
テストを行います。
12/22 16:00締め切り

▼出席▼

201で講義中
出席します

■メニュー■

[演習教室\(4\)](#)
[小テスト\(1|2\)](#)
[講義掲示板](#)
[教材倉庫](#)
[メールDe相談室](#)
[レポート\(0|0\)](#)
[アンケート\(0\)](#)
[時間割](#)
[個人情報変更](#)

[【他の講義へ】](#)
[【ログイン画面】](#)

▼ニュース▼

testtest

▼メニュー▼



演習教室

公開中0件

演習問題の自学習と履歴を見ることができます。



小テスト

未解答0件 成績公開0件

小テストの受講と履歴を見ることができます。



講義掲示板

この講義に関する掲示板です。



教材創庫

この講義の電子教材を閲覧することができます。



メール相談室

先生へのメール相談フォームです。



レポート

提出可能0件 成績公開0件

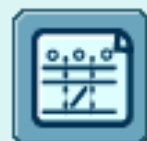
レポートの提出と履歴を見ることができます。



アンケート

未回答0件

アンケートの回答はこちらから。



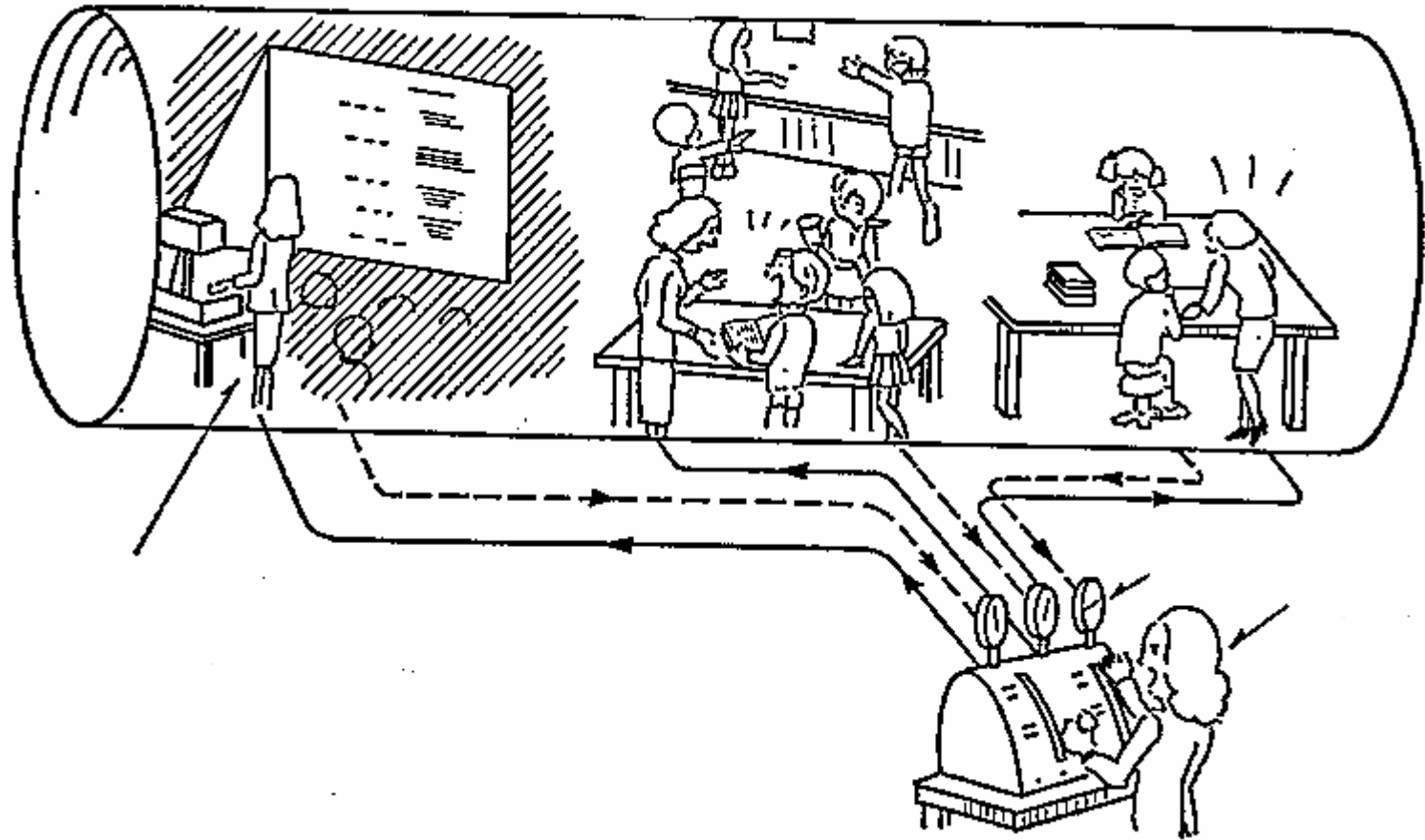
時間割

この講義の時間割です。

自律協調学習の共同開発手法

- 基本理念(Concept): 開発における共通理念
「教育方法学」の授業を自律協調学習として開発する
- 隠喩(Metaphor): なじみ易いほかの技術などを喩えとして共通理解を図る
醸造技術に喩える
- イメージ(Image): 共通理解を図るために図式表示などで表現する
- モデル(Model): 開発のためのガイドとなる
MACETOモデル

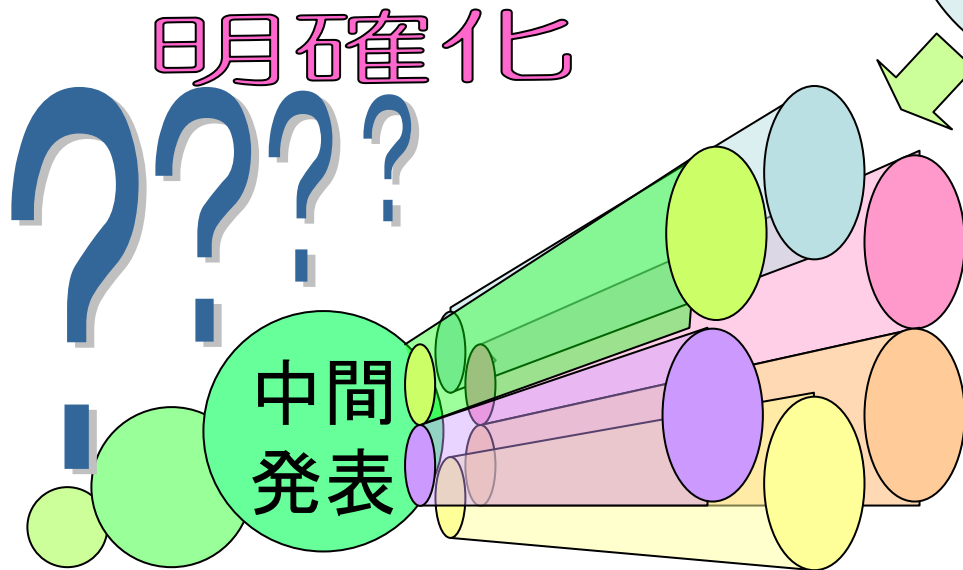
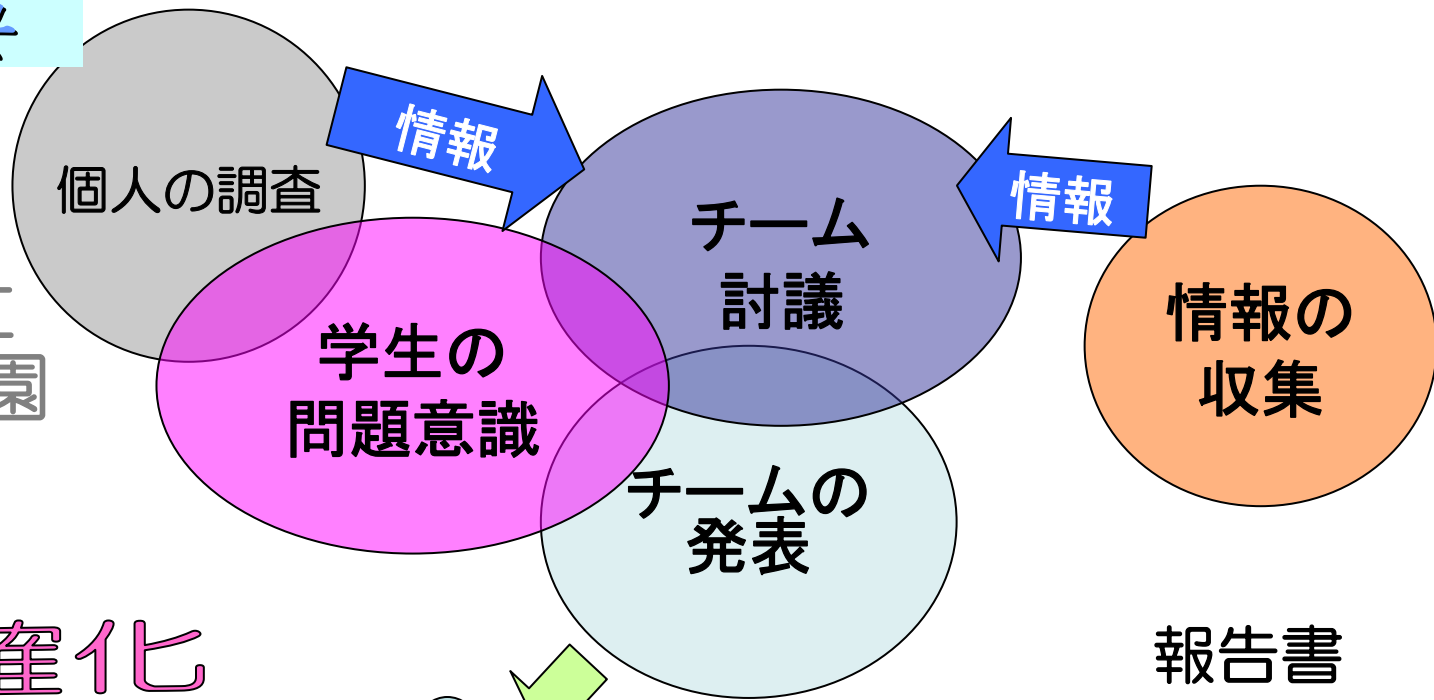
醸造技術を比喩とした授業イメージ



1981年 授業の過程, 第一法規

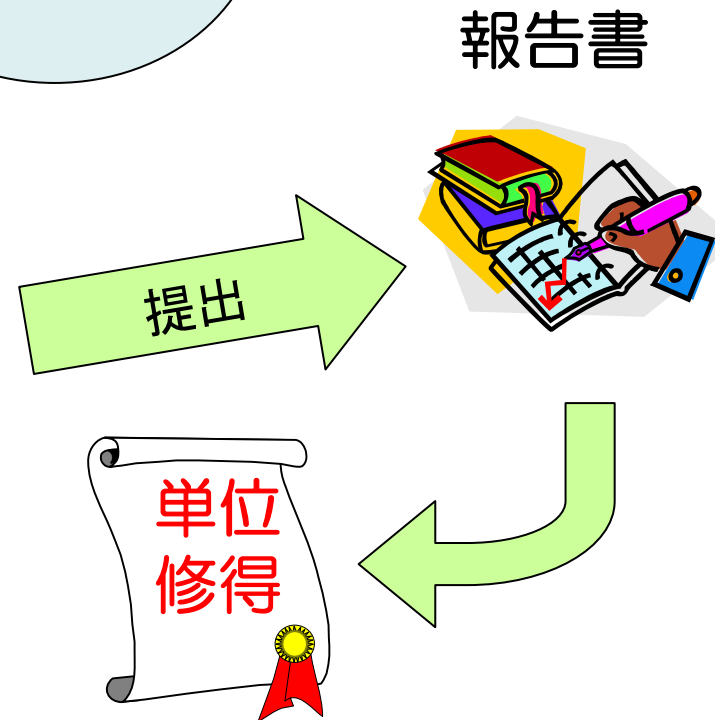
コースの概要

テーマ: 知識社会での学校・園の教育を創る

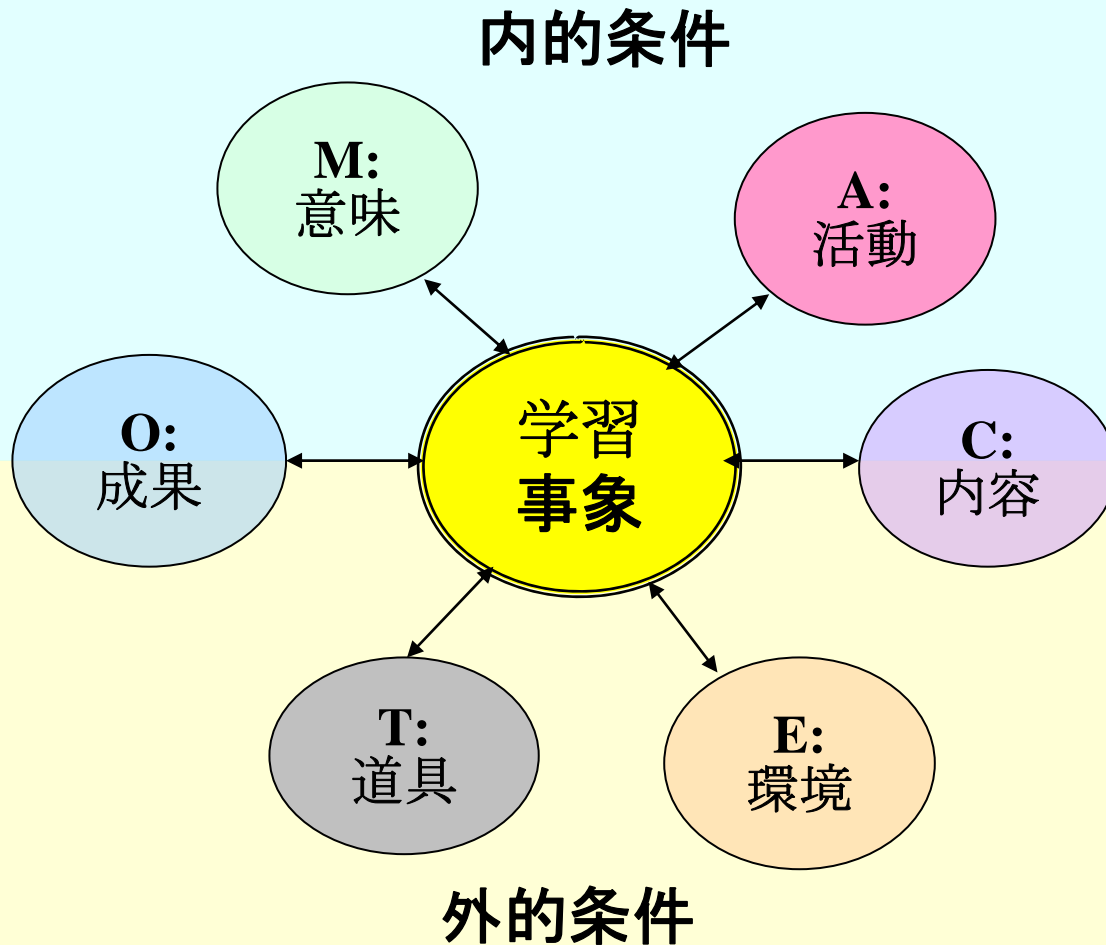


チーム学習 自律協調学習

創造的貢献



授業設計のためのMACETOモデル



仮説: 学習者の内的条件を整えることによって、外的条件が十分でない場合でも、その困難を克服して自律協調学習を実現することができる。

グループ学習よりもチーム学習

司会(=チェアマン)

- ・この授業ではメンバー同士の討論で進められるので、発言しやすい雰囲気作りに努め、メンバーの発言を引き出す役割。

技術(=技術的な問題解決を担うインストラクター)

- ・チームの中で主にパソコン操作や心ターネットのインストラクターとなって、メンバーのつまづきを解消する。

記録整理(=データベースを司るご意見番)

- ・常に学習記録をとったり、「わからないと感じる点」や「意思疎通で食い違う点」のメモをとって、その解決をメンバーに呼びかけたり、話がそれたら軌道修正の必要性を指摘する。

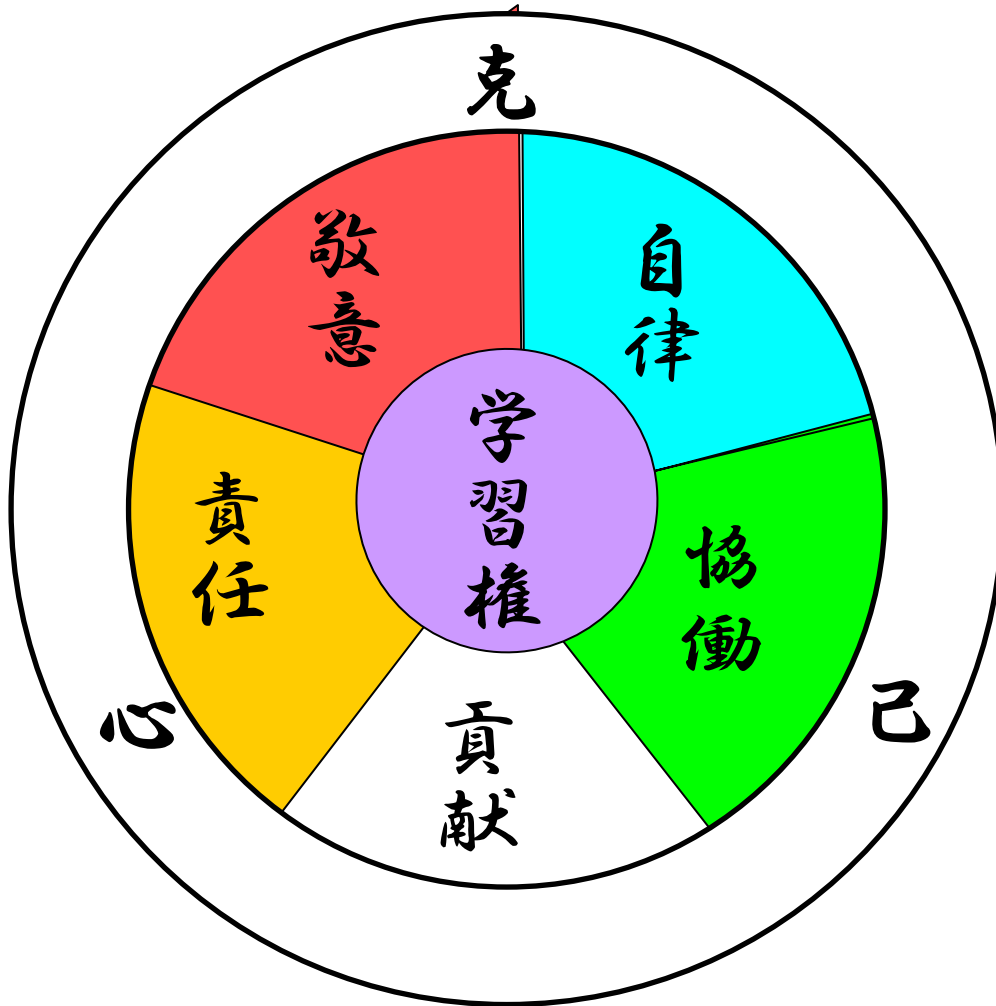
計画管理(=学習マネージャー)

- ・チームの作業をチームメンバーすべてが見通せるように、メンバーと相談してスケジュールを調整しながら計画書を作成する。メンバーの学習管理を担当する。

その他(チームに必要なだと感じた役割なら何でもOK)

- ・チーム学習を円滑に進める上で、なくてはならないと考える役割を開発する。

チーム学習の規範とロゴ



- 自律 自己責任で学習を計画、実践、管理する
- 協働 チームの課題を解決するのに参加する
- 貢献 学習は自分のためではなく人のために
- 責任 他人との関係のなかで自分の役割を学ぶ
- 敬意 自分の学びは他人に支えられている

変動社会における教師の力量

教える満足よりも
学ぶ歓びを！